

平成29年5月1日（月）その13 歴史を変えそうな天才少年

GWの前半は、「昭和の日」が土曜日と重なり、「少しもったいな」と思いました。でも後半が5連休なので楽しみですね。しっかりと家族サービスもしつつ、自分自身もリフレッシュしてください。私は28日（金）も休みだったので3連休でした。故郷渡名喜島に行って少し遅いシーミーをしてきました。お墓にご馳走を広げて線香をお供えして、両親やご先祖様に島尻教育研究所に勤務していることを報告してきました。いつも、「思いっきり仕事ができるよう、見守っていてください。」と祈ります。

今日は、「天才少年」の話をしてします。誰のことかわかったかな？

10数年前、私の息子達が毎週「少年ジャンプ」を買っていたので、大人気の「ドラゴンボール」などを拾い読みをしているうちに、ハマってしまった漫画がありました。それは「ヒカル碁」という作品でした。原作が「ほったゆみ」、漫画は、絵のうまい「小畑健」の作品だった。

碁盤に宿っていた平安時代の天才棋士・藤原佐為（ふじわらのさい）の霊に取り憑かれたヒカルが、最初は佐為に導かれて、後半は自力で、どんどん強くなっていく話であった。佐為だけでなくヒカルもまた天才的な才能を秘めていたのである。

さて囲碁ではないが、プロ将棋の世界に今、衝撃の天才少年が出現しているのを知っているだろうか。中学生棋士、藤井聡太四段である。

藤井4段は、昨年2016年に14才2か月の史上最年少でプロ棋士になった。これまで中学生でプロ棋士となったのは4人しかおらず、羽生善治九段など、いずれも将棋界を代表する天才的な棋士達である。

藤井四段は、史上5人目の中学生棋士としてのデビュー戦で、現役最年長加藤一二三九段(77)に勝ち、快進撃が始まった。先週は、39歳年上の平藤眞吾七段に勝ち、公式戦14連勝を飾っている。あの天才・羽生善治が「実力は本物、すごいことをやってのけた。」と述べたとのこと。

テレビで何度か彼のインタビューを聞いたことがあるが、伏し目がちに言葉を選びながら話す態度は、中学生とは思えない。落ち着き払った態度で語彙力も相当なものである。藤井四段は、名古屋の中高一貫校「名古屋大学附属中」に通っているらしい。

またインターネットテレビ局が企画した藤井四段が一流棋士7人と戦う非公式戦で、羽生善治三冠、深浦康市九段、佐藤康光九段ら、そうそうたるメンバーに勝ち、通算成績6勝1敗としたようである。

「十で神童十五で才子、二十歳過ぎればただの人」ということわざがあるが、藤井聡太四段については、多くのトップ棋士達が、その実力を認めている。連勝記録はいずれ止まるだろうが、最年少で7大タイトル（「竜王戦」、「名人戦」、「王位戦」、「王座戦」、「棋王戦」、「王将戦」、「棋聖戦」）のいずれかをとるのではないだろうか。楽しみである。現在までの記録は、屋敷伸之九段が18才でタイトルを獲得したのが最年少であるらしい。羽生善治九段も19才で棋聖戦、20才で棋王戦のタイトルを獲得している。

さて、天才少年藤井聡太4段は、デビュー戦からの連勝記録で歴史を塗り替えたが、最年少タイトル獲得の記録も塗り替えてくれるような気がする。

平成29年5月2日（火）その14 先見の明、島尻教育研究所の設立

先週末に所内研修として、知花局長や仲村施設課長の講話がありました。知花局長には、特別地方公共団体（一部事務組合）である南部広域行政組合の法的な位置づけや組織、仕事内容等について詳しく説明していただきました。「ごみ、し尿処理、消防、火葬場」などの市町村共通の行政課題に対して、「一部事務組合」を組織して共同実施することで市町村財政の効率化を図っているとのことでした。南部水道企業団、東部消防組合、島尻消防・清掃組合など、沖縄には26の「一部事務組合」があるそうです。

それから島尻教育研究所設立当時のお話を聞きました。平成3年から準備を始め、島尻地区内の市町村に負担金を出していただくことになるので、研究所の設立の必要性を市町村首長や各方面に粘り強く説明したそうです。平成6年によく設立にこぎつけました。設立に関わった多くの皆様並びに賛同いただいた各市町村に厚く感謝申し上げます。研究所を南部広域行政組合に組み入れ、各市町村教委の共同事業として位置づけたことは、まさに「先見の明」があったものと思います。今月末にご講話を拝聴する予定の宮城恒彦さんは、初代の研究所長です。設立当初の「想い」が聞けるかも…。

設立から20年を超え、島尻教育研究所の取組はますます充実してきています。地区内の校長・教頭をはじめ沖女短大や琉大の全面的な協力を得て、指導講師の先生方が充実しています。また短期研修事業である地区内の各種研究団体の連絡協議会の開催、幼稚園やこども園等の職員研修は、他の教育研究所ではまだ実施できないほど独自の取組です。年一回の「教育講演会」も研究所の目玉事業ですね。事業を立ち上げた方々に感謝！感謝！

私は、県から配置されている2人の指導主事、非常勤の幼児教育担当指導主事とともに心をつなげて、島尻地区の教職員の日常の教育実践の指導力向上に寄与していかねばならないと、強く思いました。

また仲村施設課長から、ごみの最終処分についての講話がありました。島尻地区には3つの清掃組合があります。ごみは燃やすと最終的に残渣（ごんさ）と呼ばれる焼却灰や不燃物などが残ります。その処分は現在、県外の業者や県内の中部地区の事務組合に委託をしているそうです。

島尻地区内にごみの最終処分場を作ることは、長年の夢でした。今、南城市玉城の堀川集落の近くに最終処分場を建設中です。屋根のついたでっかい施設（第一区画1000坪）の中は、地下に掘り下げられていて、そこに残渣を埋め立てていき、水で洗浄していくのだそうです。その水も外に出さないようになっていて、処理をして再利用するそうです。第一区画に引き続き第二区画（2000坪）に着工するそうです。完成間近な巨大な施設の中を見学させていただきました。

50億円以上かけて作るのに15年で満杯になるようです。その後は、八重瀬町、西原町、糸満市、豊見城市の順に最終処分場を建設していくことが決まっているそうです。

各学校においては、環境教育にも力を入れているものと思います。ごみの処分に莫大なお金がかかる今、ごみの分別やリサイクルをさらに進め、家庭ごみをもっと少なくする工夫のできる人間の育成が重要だと思います（書いていて、ちょっとウチアタイしている…）。